

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

平成21年10月22日

財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 理学研究科

職 名・学 年 研究員

氏 名 岸 田 拓 士

事業区分	平成21年度・国際研究集会派遣助成		
研究集会名	第18回海棲哺乳類学会大会 18th Biennial Conference on the Biology of Marine Mammals		
発表題目	Genetic basis of cetacean olfaction: comparative studies of olfactory receptor gene repertoires among aquatic-adapted tetrapod species		
開催場所	カナダ ケベック州 ケベックシティー		
渡航期間	平成21年10月10日 ~ 平成21年10月19日		
成果の概要	タイトルは「成果の概要/報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 無 有()		
会計報告	交付を受けた助成金額	200,000 円	
	使用した助成金額	200,000 円	
	返納すべき助成金額	0 円	
	助成金の使途内訳 (使用旅費の内容)	学会参加費 305USD (27500円)	
		航空券 100790JPY (100790円)	
宿泊・滞在費の一部 71710円			
(上記に充当)			

概要

報告者は、京都大学教育研究進行財団の平成 21 年度国際研究集会派遣助成 II 期採択者として 2009 年 10 月 11~16 日にかけてカナダ・ケベックシティで開催された第 18 回海棲哺乳類学会大会に参加し、海棲四足動物の嗅覚の分子機構に関する発表を口頭にて行った。

学会に参加して

この学会には 2000 人以上の研究者が参加し、282 の口頭発表、およびおよそ 800 のポスター発表が行われた。非常に演題が多く、全てを聴講するのは不可能であったが、いくつかの非常に興味深い研究を知ることができた。特に、フィンランド・ヘルシンキ大学の Sirpa Nummela 博士による、鯨類の聴覚と生息環境との相関関係に関する研究報告は、現在報告者が嗅覚で行っている研究の聴覚版であり、報告者の今後の研究方針を決める上で、多いに参考になった。

研究発表

報告者は、10 月 14 日の午後の Sensory Biology & Neurobiology のセッションにて 15 分間の口頭発表を行い、クジラやイルカ、ウミヘビなど様々な海棲四足動物の鼻腔の解剖学的諸特徴とその動物が持っている嗅覚受容体遺伝子との関係性についての研究結果を発表した。内容を詰め込みすぎたためか、発表時間が持ち時間の 15 分をやや超過してしまい、このためにあまり質疑応答の時間がとれなかったことが残念であったが、その後のコーヒブレイクの時間に多くの質問や感想などを直接頂くことができた。特に、フロリダ大学でジュゴン・マナティーの嗅覚の研究を行っている Iskande Larkin 助教の研究グループから共同研究に関するオファーを頂くなど、多くの参加者に興味を持ってもらえたようである。

共同研究に関するディスカッション

報告者はまた学会開催中に、現在ホッキョククジラの嗅覚に関する共同研究を行っている北東オハイオ大学の J.G.M. Thewissen 教授と Meghan Moran 院生、およびアラスカ州ノーススロープ郡野生動物管理局の Cheryl Rosa 博士と、現在までに得られたデータに関して討論を行った。お互いの研究の本拠地が互いに遠く離れており、普段は電子メールでのやりとりが主であったため、お互いに顔を突き合わせてディスカッションを行う非常に良い機会が得られた。